



YMCA Action Book

2021-2022

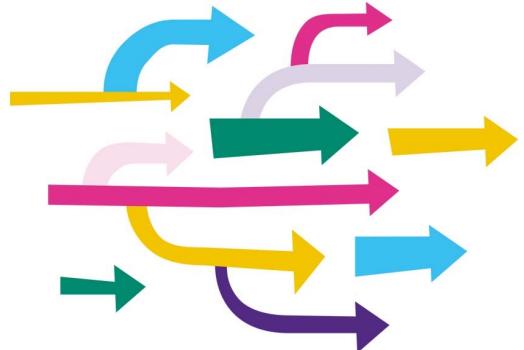
京都YMCA活動レポート



京都YMCA

ひとりがよくなると 世界はきっとこう変わる。

ひとりがよくなると 世界はきっとこう変わる。
ひとりが「よくなる」と、どんなコトが起きるだろう。
ひとりが「よくなる」と、その人と出会った誰かがうれしくなる。
つまり、その人もきっと「よくなる」。
そして「よくなる」の繰り返しは
社会や世界をよりよく変えていくチカラになると思うのです。



互いを認め合い、高め合う
「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。

「ポジティブネット」 Positive Net

互いの存在や個性を認め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。課題の多い社会のなかで、それは、生きるためのひとつの選択肢となっていく。私たち日本のYMCAは、グローバルなネットワーク基盤を活かしてポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ります。

2021-2023年 中期計画 テーマ 「地域から必要とされる存在となる」

京都YMCA 2021年度 年間聖句

だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。

コリントの信徒への手紙 II 4章16節

京都YMCA 2021年度 事業計画

1. ウィズ・アフターコロナ社会に向けて新型コロナ感染拡大がもたらした社会的分断をつなぎなおす働きとしての地域社会の課題にコミットしてゆくYMCAを再創造する
2. 京都YMCAの事業の継続を支える財政的基盤を確立
3. YMCAの理念を実現する人材を養成する仕組みを構築

ご挨拶



公益財団法人京都YMCA
理事長 亀井 剛



学校法人京都YMCA学園
理事長 野村 武夫



総主事
加藤 俊明

新型コロナウイルスの感染拡大が収まる兆しが見えない1年でありましたが、皆様のお祈りとお支えにより、神様のお守りの内に京都YMCAの諸活動を進めることができました。深く感謝申しあげます。

2021年度は新たな中期計画の初年度として、コロナ禍の状況においても、5年後、10年後を見据えた既存事業の改革に取り組む年となりました。

中期計画は「地域から必要とされる存在となる」を掲げてスタートしました。YMCAは地域になくてはならない存在であると私たちは自覚しています。しかし、自分たちが自覚していることと世間が同じように認識しているかということは別問題です。私たちが現在行っている事業やプログラムの目的や内容が、現代的課題に対応しているのか、変化している今日の社会課題への応答となっているのかを再度問い合わせし、京都YMCAの地域社会における存在価値を高める必要があると認識し、そのことに取り組もうとしています。

YMCAのブランディングに基づいた新しいロゴマークやブランドコンセプトも、YMCA内外で少しずつ定着してきました。しかし、私たちの行っている事業やプログラムの内容がそのブランドコンセプトに伴ったものになっていなければ、YMCAが目指すVISIONの実現には至りません。

そのためには、2021年度の年間聖句に示されているように、京都YMCAに連なる私たちは「内なる人」は日々新たにされてゆくことが必要と考えます。

公益財団法人京都YMCA及び学校法人京都YMCA学園は、コロナ禍による困難の中、様々な工夫と新たな取り組みによって「地域社会になくてはならない存在となる」ために、会員や多くの地域の方々と共に活動に取り組んでまいりました。この1年間の活動報告を作成しましたので、是非ご高覧ください。

役員一覧

公益財団法人京都YMCA

理事長	亀井 剛
常務理事	加藤 俊明
理事	石若 義雄 三井 哲次
監事	中島 啓泰 船木 成一
委員長会議構成員	堀井 忠 吉井 千鶴
評議員	宇高 史昭 森田 芳文 宇佐美賢一 黒木 保博 杉井 恭敏 山本 知恵
高田 敏尚 奥村 正治 小嶋 薫 牧野万里子	

学校法人 京都YMCA学園

理事長	野村 武夫
常務理事	加藤 俊明
理事	亀井 剛 森田 芳文
監事	藤田 寿男
評議員	石田 晋治 草野 功一 山本 孝 阪野 学 加藤 俊明 伊藤 恭子
高田 敏尚 奥村 正治 小嶋 薫 牧野万里子	
松村 康弘 奥村 正治 黒木 保博 野村 武夫 好崎 志保 藤原 貴子	
隠塚 功 黒木 保博 亀井 剛 服部 待 徐 恩熙 阿部 和博	

年間総括報告

新型コロナウィルス変異株の出現により、2021年度は昨年度に引き続き感染拡大の影響を受ける年となりました。

年度開始の4月から、蔓延防止等重点措置、緊急事態措置が相次いで発出されました。事業の制限要請が限定的であったこともあり、事業中止期間は比較的短期で終えることができましたが、諸事業の実施にあたっては、感染予防の様々な対策を取りながら進めていくこととなりました。

コロナ禍により多くのプログラムやミーティングが中止・延期となり、事業を実施する際はオンライン開催や人数制限など予防対策を施してきました。感染が少し治まってきた秋からは、感染防止策を取りながら、対面で集まるプログラムも開催しました。

コロナ禍で普及してきたZoomやYouTubeを駆使した取り組みも、昨年度に引き続き実施しました。会員協議会や会員集会などの集いは、会場開催ではなくオンライン配信で実施しました。京都YMCAのYouTubeチャンネルも開設し、水上安全講習の着衣水泳やキャンプで使える技術などを、SNSを活用して登録者に配信することを始めました。

施設関係の特記事項としては、YMCA三条保育園の分園として、三条通沿いのビルの1室を使って「YMCA高倉おさなご園」を新たに開設し、定員11名でスタートしました。

また、京都ZEROワイスメンズクラブよって新しいキャビンガリトリートセンターに寄贈され、オータムフェスタの時に贈呈式が行われました。

しかし、残念なことに、73年にわたり多くの人々に愛されてきた琵琶湖畔のサバエ教育キャンプ場をこの年度を持って閉じることとなりました。長年、多くの子ども・若者の人間形成・育ちの場となってきたキャンプ場は、秋雨降り注ぐ浜辺で開催された閉所式をもって、その役割を終えました。

その他、この1年間の京都YMCA事業概要報告を事業分野ごとに報告いたします。